

平成28年度地域包括支援センター事業評価
⑦ 六実六高台地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

松戸市

平成29年7月

1. 組織／運営体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		4	3		ウ・エ 所内で重点業務に関し話しあいをおこなった。
評価の根拠	ア.「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない	いる			
	イ.「事業計画」を法人として決定している／いない	いる			
	ウ. 担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成28年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない	いる			
	エ. ウが「いる」の場合、重点業務の具体的内容【自由記入】	・地域の介護支援専門員や委託先の介護支援専門員への支援を強化する。 ・地域ケア会議(個別ケア会議・推進会議)の充実。			
	オ.「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】	センターの年間行事予定表および作業日程表を作成し、遂行すべき事業計画に漏れがないよう職員全員で共有した。また、毎月、センター内でのミーティングを実施し、進捗状況の確認を行った。			
	カ. その他【任意・自由記入】	昨年度の事業評価の結果を踏まえ、センター内でミーティングを実施。センターおよび担当圏域の課題を抽出し、平成28年度の事業計画および重点課題を策定し、実施した。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	平成29年4月1日現在 (5,957)人			
	イ. 担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	平成29年4月1日現在 独居世帯数(1,291)世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数(3,746)人			
	ウ. 担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	平成29年4月1日現在 (2,557)人			
	エ. 担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	平成29年4月1日現在 独居世帯数(735)世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数(1,743)人			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		4	4	イ 自主運営サークルの立ち上げ支援をおこなった。	
評価の根拠	ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】	相談を受けた内容から統計的にニーズの分析を行っている。また、センターが実施する事業では参加者に対するアンケートやヒアリングを実施し、ニーズの把握に努めている。			
	イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】	・認知症予防教室について、地域住民のニーズに応え、標準開催回数を超え概ね月1回開催した。 ・センターの主催事業やパートナー講座を開催する際は、パワーポイント等を活用したスライドや映像等を効果的に取り入れ、わかりやすく伝わりやすい講座となるよう工夫した。 ・認知症予防教室の修了後のつなぎ先がなかったため、修了後の自主運営サークルの立ち上げ支援を行った。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④個人情報保護の徹底を行っているか。		4	4	ア. 受託法人が作成した「特定個人情報取扱規定」や「松戸市個人情報保護&セキュリティハンドブック」等を活用し研修を実施している。	
評価の根拠	ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない	いる			
	イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない	いる			
	ウ. 個人情報の管理のために行っている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】	個人情報の含まれる書類やパソコン等は、すべて鍵付きのキャビネットに保管し、必要時以外は施錠している。パソコンについてもパスワードを設定し、従事者以外の者は開くことが出来ない設定にしている。			
	エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】	受託法人による入職時の新入職員研修としても個人情報保護の研修を実施しているが、更にセンター内においても「松戸市個人情報保護&情報セキュリティハンドブック」を用いて受託事業としての個人情報保護について再確認している。 個人情報マニュアルについては全員に配布し、半期に一度センター内で確認を行っているほか、随時、打ち合わせ時に注意喚起を行っている。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項															
⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。	4	4	カ. 法人が作成した名刺サイズのカードを配布し包括の周知活動を展開している。																
ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	高齢者支援相談員会や地域ケア会議等地域の方が集まる場所で、地域包括支援センターの窓口体制等についての周知に努めている。また、職員が携行する名刺裏面に窓口開所時間帯以外は受託法人へ電話を転送する旨の記載があり、法人内で窓口開所時間帯以外の相談受付体制が構築出来ている。																		
イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(28年度1年間) 【件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>0件 内(0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>0件 内(0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>52件 内(33件)</td> <td>19件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>52件 内(33件)</td> <td>19件)</td> </tr> </tbody> </table>				本人又は親族	その他	訪問	0件 内(0件)	0件)	面接	0件 内(0件)	0件)	電話	52件 内(33件)	19件)	合計	52件 内(33件)	19件)	
	本人又は親族	その他																	
訪問	0件 内(0件)	0件)																	
面接	0件 内(0件)	0件)																	
電話	52件 内(33件)	19件)																	
合計	52件 内(33件)	19件)																	
ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	高齢者支援相談員会や地域ケア会議等地域の方が集まる場所で、地域包括支援センターの窓口体制等についての周知に努めている。また、職員が携行する名刺裏面に窓口開所時間帯以外は受託法人へ電話を転送する旨の記載があり、法人内で窓口開所時間帯以外の相談受付体制が構築出来ている。																		
エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(28年度1年間) 【件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>3件 内(3件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>2件 内(2件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>69件 内(29件)</td> <td>40件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>74件 内(34件)</td> <td>40件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	3件 内(3件)	0件)	面接	2件 内(2件)	0件)	電話	69件 内(29件)	40件)	合計	74件 内(34件)	40件)			
	本人又は親族	その他																	
訪問	3件 内(3件)	0件)																	
面接	2件 内(2件)	0件)																	
電話	69件 内(29件)	40件)																	
合計	74件 内(34件)	40件)																	
※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>0件 内(0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>0件 内(0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>5件 内(2件)</td> <td>3件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5件 内(2件)</td> <td>3件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	0件 内(0件)	0件)	面接	0件 内(0件)	0件)	電話	5件 内(2件)	3件)	合計	5件 内(2件)	3件)			
	本人又は親族	その他																	
訪問	0件 内(0件)	0件)																	
面接	0件 内(0件)	0件)																	
電話	5件 内(2件)	3件)																	
合計	5件 内(2件)	3件)																	
オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している/いない	いる																		

評価の根拠

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	センター独自で名刺サイズのカードを作成し、関係機関や訪問先等に配布しPRするほか、センターを紹介するチラシを作成し、事業やイベント等で配布している。また、28年度は高齢者支援相談員会や地域の老人クラブの公開講座で地域包括支援センターの啓発を実施した。	/		
キ. その他【任意・自由記入】	センター運営委託仕様書においては、窓口開設日及び時間について、平日の8時半～17時とされているが、本人及び家族、事業所等からの求めがあった場合は必要性を検討したうえで夜間・休日等に相談対応等を行った。 夜間・休日等でセンター職員不在時に受託法人で受理した相談については迅速かつ確実にセンターへ繋ぎ、その後の対応を実施した。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。	4	4		
評価の根拠	ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(28年度1年間)【件数を記入】	苦情受付件数 1 件 (内センター自体の苦情 0 件)		
	イ. 「28年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】	解決時間: 2 時間 連携機関: 松戸市高齢者支援課 松戸市介護制度改革課		
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している／いない	いる		
	エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】	受託法人の作成した苦情対応担当者および責任者の氏名と連絡先を窓口に掲示し、苦情受付窓口の周知に努めている。また、センターの実施する介護予防支援または介護予防ケアマネジメントの契約書にも苦情受付体制について明示し、契約時には丁寧に説明を行っている。		
	オ. 重大な苦情の内容及び対応内容を決定し、関係機関と共有している／いない	いる		
	カ. その他【任意・自由記入】	今年度受けた苦情は、松戸市の実施したアンケートに係るものであり、担当課に確認し、説明することでご理解をいただいた。平成28年度、センター自体に対する苦情はなかったが、意見や要望を表出しやすい雰囲気作りに努め、苦情を受理した際には真摯に対応していきたい。		

2. 人員体制

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。	4	4		エ 伝達研修については、内容によって、10分～2時間の時間を確保している。また、毎朝、5分程度、受託法人主催の研修会に参加(1名)し、1週間分まとめて所内で回覧している。
評価の根拠	ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入	保健師等 : (0)日 社会福祉士 : (0)日 主任介護支援専門員 : (0)日		
	イ. 「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職/専門職総数)を記入】		33%	
	ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成29年3月末現在の平均勤続月数を記入	平均 32 月		
	エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】	45 回		
	オ. その他【任意・自由記入】	今年度新たに配属された専門職については新入職員ではなく、法人の運営する在宅介護支援センターや地域包括支援センター等、地域ケア分野での勤務経験を充分有する職員を法人内の人事異動で配属したものである。 研修については、千葉県・松戸市をはじめ、さまざまな実施主体が開催する外部研修へ積極的に参加したほか、受託法人による法人内研修も実施している。研修に参加した職員から他の職員への伝達研修について確実に実施、情報共有が出来ている。		

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②専門職間の連携を効果的に行っているか。	4	4		
評価の根拠 ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成29年3月末現在在籍している全ての専門職について記入	①34 ②33 ③33 ④ ⑤ ⑥ 平均 33 点	/		

3. 総合相談支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①相談内容の把握・分析を行っているか。	4	4		
ア. 分類別の相談件数 (28年度1年間) a.本人又は親族への支援 【件数を記入】 b.本人又は親族以外の機関に 支援 【件数を記入】	a.本人又は親族への支援 介護に関する相談 871件 健康・医療に関する相談 555件 経済的相談 65件 介護予防相談 148件 家族調整に関する相談 51件 権利擁護に関する相談 49件 諸制度に関する相談 22件 その他 350件 総計 2,111件 b.本人又は親族以外の機関に支援 介護に関する相談 948件 健康・医療に関する相談 504件 経済的相談 73件 介護予防相談 54件 家族調整に関する相談 70件 権利擁護に関する相談 206件 諸制度に関する相談 12件 その他 334件 総計 2,201件			
評価の根拠 イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】 ※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	平成28年度上半期の統計資料においては、本人又は親族への支援の割合(利用率)が松戸市全体の平均を若干下回っている一方で、本人又は親族以外の機関への支援については平均的な数値であった。 介護支援専門員からの新規相談、同行訪問等について、他の地域よりも支援実数が少ないことは昨年度よりの検討課題としており、改めて29年度以降の事業計画で重点課題として位置付けている。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している／いない	いる	/		
エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている／いない	いる			
オ. その他【任意・自由記入】	受け付けた相談については、共有フォルダにて相談台帳を作成し、情報共有が出来ている。毎朝の申し送り時に必要なケースについては報告・連絡・相談を実施。困難ケース等については多職種で検討し主担当を決める等工夫している。 ケース記録については基本的にケースごとにファイリングを行っており、担当職員以外の職員が見てもケースの概要・進捗状況等がわかるよう整理している。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている／いない	いる			
	イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	他地域の地域包括支援センターから引き継いだケース。部屋の一部分がごみで埋め尽くされる、入浴や更衣を行う様子もない等いわゆるセルフネグレクト状態にあり、経済的に困窮している様子が窺えたが支援を拒否、近隣からも心配の声が寄せられていた。環境区内の「個別事例検討会」で対応の方向性等について市や他の地域包括からも助言をいただき、民生委員等とも連携し訪問を重ねるうちに信頼関係が構築され、受診の確認が出来、要介護認定申請に至った。			
	ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	「地区社会福祉協議会の事務室に、精神障害が疑われる男性が頻回に現れ、居座る行為があり、どのように対応してよいか困っており、協力してほしい」と、地区社会福祉協議会役員および地区民生委員児童委員協議会会長より相談があったケース。精神科受診歴はあったが、自己判断で治療を中断しており、様々な精神症状がみられ、地域への迷惑行為・家族の介護疲れがみられた。隣接地域にある精神障害者の支援機関「ふれあい相談室」の精神保健福祉士と協働し、受診・治療に繋げることができた。			
	エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	主介護者である子から、独居の親が認知症があり支援しているが、介護が負担になっていると相談があったケース。介護者のつらい等の情報提供の支援を行った。介護サービスの利用等は本人の拒否があり利用には至っていないが、地域包括という相談窓口が出来たことで主介護者の心理的負担は軽減できているようであり、定期的に相談対応を実施している。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	保健福祉センターの保健師より、子家族と同居している高齢者のうつ症状についての相談。出産して間もない家族が主介護者となっていたが、うつ症状により食事や睡眠もままならない状態で不安感が強い高齢者の症状により、新生児を抱えながらの介護に大きな負担が窺えた。保健福祉センターや精神科の往診診療と連携し対応を行い、負担の軽減に繋げた。				
カ. その他【任意・自由記入】	進捗管理については、支援の漏れを防ぐため、ケース台帳の活用やレビュー会議時の確認を行っている。 他分野との連携や理解を深めるため、障害福祉分野の専門職との情報交換や法律分野の任意の勉強会に参加するなどした。				

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項	
③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。	4	4	ア 圏域内の社会資源(高齢者向けの集い・サークル等)を集約し、わかりやすくリスト化している。また、相談コーナー横の壁面に圏域内の介護関係事業所等のマップを掲示している。		
ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している/いない	いる	/	エ 共有の名刺ファイルを整備し、誰でも閲覧・活用できるようにしている。また、名刺には対応した職員名を付すことで、以前に誰が対応したのか明確にし、次回以降のスムーズな対応に繋げている。		
イ. 職員が依頼に基づき参加した関係機関・組織における全ての会議・行事等(※)の日程・テーマ 【日程・テーマを記入】 ※①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント(テーマ記入不要)、②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント、③地域密着型サービス事業者の運営推進会議に大別して記載(地域ケア会議や医療関係者とのカンファレンスなどを除く)	<p>①六実さくら祭り(4月3日)市民団体(4月4日、5月23日、11月21日、12月5日、1月16日)新日本婦人の会(4月5日)認知症カフェ(4月12日、10月11日、12月13日)老人会(5月16日)有料老人ホーム(7月2日)生涯学習推進課(10月7日)計13回</p> <p>②松戸市認知症コーディネーター世話人会(4月28日、7月1日、8月25日、9月26日、12月8日)富士通WINCAREプレゼンテーション(5月18日)まちっこプロジェクト講師研修会(6月25日)まちっこプロジェクト実施報告会(29年2月19日)東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症疾患医療センター合同連絡協議会(7月12日、1月17日)認知症ケアパス検討会(7月19日、10月13日、11月18日、29年1月18日)地域包括支援センターの機能評価指標に関する検討会(7月29日、12月6日、29年3月1日)オレンジ協力員推進事業説明会(7月27日)認知症初期集中支援チーム員会議(7月30日、9月30日)認知症地域支援推進員会議(10月5日)松戸市老人ホーム入所判定委員会(11月25日)訪問型元気応援サービスと生活支援体制整備の意見交換会(29年1月23日)松戸認知症予防プロジェクト関係者会議(29年3月6日)計24回</p> <p>③地域密着型サービス事業者の運営推進会議(4月13日・20日、5月30日、6月8日・23日、7月22日・23日、8月10日・25日、9月26日、10月24日・28日、11月17日・28日、12月14日・21日、1月27日、2月8日・15日、3月25日・27日・31日)計22回</p>		/		
ウ. 個人の有するネットワークを専門職で共有している/いない	いる			/	

評価の根拠

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
エ. その他【任意・自由記入】	<p>ネットワークの構築が特定の職員に偏ってしまうことの無いよう、会議や行事等には専門職がまんべんなく参加するよう努めた。また、名刺交換をした際の名刺を共有し活用したり、職員の紹介を積極的に行うなど、ネットワークを個人的にはなくセンター全体で共有できるよう心掛けている。</p>	/		

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④地域の社会資源について把握を行っているか。		4	3		ア たんぽぽサロン、あすなる、介護者のつどい、まごごる(配食)などとの連携や交流がある。
評価の根拠	ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(○ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等	圏域内 27ヶ所 圏域外 10ヶ所			
	イ. アの地域の社会資源を開発するために行っている方策【自由記入】	オレンジ協力員や高齢者支援相談員等、地域活動に意欲のある住民に対し、活動方法や活動先等の助言等を行ったほか、地域の通所型元気応援サービスを実施する地域団体へ講師派遣等の協力を行った。			
	ウ. 地域の社会資源やその情報の収集方法【自由記入】	インターネットや印刷物等を利用した情報収集のほか、地域のケアマネや事業所、地域団体等と密に連携を行い、口コミ等、ネットワークからの情報も収集できるよう努めている。			
	エ. 地域の社会資源に関するマップやリストを作成している／いない	いる			圏域内外の社会資源マップを独自に作成し、相談対応時等に活用。相談者から「わかりやすい」と好評をいただいている。定期的に見直しを行い、今後さらに充実させていく予定である。
	オ. 地域の社会資源に関するマップやリストを逐次見直している／いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	圏域内外の社会資源マップを独自に作成し、相談対応時等に活用。相談者から「わかりやすい」と好評をいただいている。定期的に見直しを行い、今後さらに充実させていく予定である。			

4. 権利擁護業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
① 成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】	窓口で随時相談を受け付けるほか、地域包括支援センターのチラシ・パンフレットによる啓発、地域包括支援センターが主催する地域の介護支援専門員を対象とした研修会や地域での啓発活動、地域ケア会議等の機会も利用し啓発を行った。			
	イ. 成年後見制度活用につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	平成28年度上半期の実績からみて、当圏域は、高齢者人口が他地域と比較して少ないこともあり、件数として相対的に少ない状況ではあるが、成年後見制度の相談対応は行っており、当該事業が必要な高齢者に対し支援する体制は整えている。今後については、必要な高齢者にもれなく繋がられるよう、介護支援専門員の研修会や市民向けの啓発活動の際など、あらゆる機会を捉えて事業の周知を図り、必要な方に必要なタイミングで利用していただけるよう必要な支援を実施していく。			
	ウ. 日常生活自立支援事業につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討	他地域において1件、日常生活自立支援事業に繋がったケースが見受けられたが、今年度当センターでは当該事業へ繋がったケースはなかった。 日常生活自立支援事業については、対象となるケースの状態像が限定的であり、時間を要するため相談を受理しても繋がらないケースが多いが、対象となり得るケースを発見した場合には迅速かつ確実に繋げていきたい。また、必要性はあるがセンターが把握していないケースも存在する可能性も踏まえ、引き続き啓発活動に努めていきたい。			
	エ. その他【任意・自由記入】	実際に繋がったケースとして数字は少ないが、本人申立てを支援したケース等、センターのもつネットワークを活用し、迅速かつスムーズにつなぐことが出来ている。当該事業の主担当者は成年後見制度および日常生活自立支援事業についての研鑽を重ねており、今後においてもわかりやすく丁寧な相談対応とスムーズな繋ぎ等に努めていきたい。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		4	4		
評価の根拠	ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事案の件数(28年度1年間)【件数を記入】	5件			
	イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる			
	ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例)	配偶者から暴力を受け本人が自ら通報したケース、警察より「本人と配偶者を一緒にはできない」との連絡を受けた。即日介入し、分離が適切であると判断、緊急ショートステイの利用となった。その後配偶者は受診の結果、認知症が疑われたが、認知面での受診には拒否が強かったため、オレンジサポートチームへ繋げ、協働した。			
	エ. その他【任意・自由記入】	当センターの専門職は全員、千葉県主催する高齢者虐待虐待防止対策研修(現任者研修)を受講済みである。「虐待の通報」である旨相談者より明言がなくとも、相談受理したケースについてセンター内で協議した結果、虐待が疑われるケース等についても迅速に市へ報告・相談し、台帳に挙げ対応を行っている。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。		4	3		
評価の根拠	ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】	当センターの立地的条件もあり、松戸市消費生活センターへ頻繁に出向くことは難しいが、適宜情報収集を実施。消費者被害に係る啓発パンフレットをもとに職員間で情報共有を行った。また、松戸市ホームページの情報についても随時確認している。			
	イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】	地域ケア会議をはじめ、主催事業等や地域での啓発活動を行う際に、消費者被害の未然防止と相談窓口についてふれるなど、啓発を実施した。介護支援専門員にむけては年2回主催する介護支援専門員向けの学びの場においてセンターの活動内容等も含め情報提供を行っている。			
	ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の日程・内容・主な参加者層・参加者数【日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	平成28年11月10日、常盤平環境区内の3地域包括支援センター(常盤平・五香松飛台・六実六高台)合同で高齢者虐待防止市民向け講演会「がんばらない介護」を健康福祉会館(ふれあい22)にて開催。77名の参加があった。			
	エ. その他【任意・自由記入】	「松戸市安心安全メール」等の内容をもとに、高齢者宅を訪問した際、不審な電話や訪問販売に関する情報を提供し、啓発に努めている。			

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的にしているか。	3	4	ウ・エ・オ 年2回、ケアマネ研究会を開催している。運営委員との打ち合わせにおいて、テーマを検討・決定している。常盤平圏域の他地域包括支援センターと日程が重ならないよう事前に調整している。	
ア. 28年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【件数を記入】	507 件			
イ. アのうち最も困難な相談事例(1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	他地域より当センターの圏域に転入予定のケースを担当する介護支援専門員からの相談。介護保険によるサービスの範囲を超えた過度な要求を繰り返しており、これまでも転居を繰り返しながら担当の介護支援専門員やサービス事業所を交替してきているが、この圏域でのサービス導入に当たり、当該地域のサービスの情報提供等も含め包括に協力してほしいとのこと。担当者会議開催の提案や本人・介護支援専門員双方への情報提供のほか訪問の実施等支援を行った。その後、利用者本人の申し出により、複数回サービス事業所や介護支援専門員が交代したが、都度必要に応じて介護支援専門員に対し助言等の支援を行った。			
ウ. 28年度1年間における地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会の開催回数【回数を記入】	2 回			
エ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師【日程・内容・講師を記入】	①平成28年5月11日(水) 地域のサービス事業所の紹介、いきいきトレーニングについて ケアマネジャーが直面している課題について 司会:圏域内 居宅介護支援事業所 介護支援専門員 ファシリテーター:企画運営委員3名 ②平成28年11月16日(水) 事例検討「在宅生活の限界点の見極めについて」 情報交換「地域の社会資源について」 司会:圏域内 居宅介護支援事業所 介護支援専門員 ファシリテーター:企画運営委員4名			
オ. その他【任意・自由記入】	研究会の開催にあたっては、年度当初に圏域内の居宅介護支援事業所へ声を掛け企画運営委員を募り、センターの主任介護支援専門員と企画運営委員とで研修会の内容等を検討した。企画運営委員は7名、企画運営会議は2回実施した。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。		3	3		
評価の根拠	ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(28年度1年間) 【件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。	21件			
	イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】	認知症、独居で不安を感じると近隣住民宅を訪問してしまう。認知症状の進行とともに近隣を訪問する頻度が増え、日に何度も同じことで対応する住民たちが疲弊し、担当ケアマネ宛て、何とかしてほしいとの訴えが強くあるが、主介護者の理解が乏しく困っているとの相談。主介護者の事情・思いを傾聴、相互理解に向けた支援を行ったほか、本人の精神症状について、医療に繋げる支援を助言・支援した。			
	ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(28年度1年間)【件数を記入】	7件			
	エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】	独居、要介護4、認知症から頻回な徘徊、民生委員や地域住民の見守りや声掛け等の支援を受けていた。しかし地域住民より見守りや声掛け等に対し負担感や疑問の声が上がったケース。地域住民や家族等参加による、担当者会議開催をケアマネに助言した。それぞれの役割を明確にし、本人の意向を確認したうえで、今後の生活の在り方を家族と支援者と共有することを助言した。			
	オ. その他【任意・自由記入】	圏域内および圏域外委託先の居宅介護支援事業所に、気軽に相談していただけるよう相談しやすい雰囲気作りに努めるとともに、信頼できる相談先として選んでいただけるよう、外部研修等にも積極的に参加するなど職員の研鑽に努めている。			

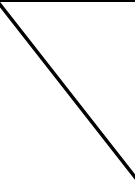
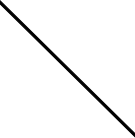
6. 地域ケア会議関係業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。		4	3		ア 平成28年度は、それぞれの立場における「見守り」に関する共有・検討をおこなっている。
評価の根拠	ア. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない	いる			
	イ. アが「いる」の場合、その具体的な方策【自由記入】	出欠連絡票に話し合いたい議題等を自由に記載していただく欄を設け、気軽に議題を提案していただけるよう工夫している。また、会議の場でも次回以降の事例や議題等を提案していただけるよう声掛けを行っている。			
	ウ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない	いる			
	エ. ウが「いる」の場合に、当該地域個別ケア会議の事例と参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【職種を記入】	【職種】 地域住民(自治会長、地区社協、民生委員、高齢者相談支援員) 障害者支援分野の精神保健福祉士			
	オ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議事録)を参加者間で共有している／いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】	上記自由記載欄に寄せていただいた意見については地域ケア推進会議中ですべて紹介し、その対応について出席者と協議した。平成28年度は個別ケア会議のうち1回について、自由記載欄に挙げられた意見が基となり地域住民が事例提供者となりケース検討を行った。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】	介護度の比較的高い60代の人々のケース、疾患から全身機能が低下してきている。家族以外の人とかかわる機会がない。家族は以前、地域との関わりがあったが、現在は地域との関わりもほとんどなく孤立している。地域の見守りの範疇について議論。			
		独居の高齢者。難聴で認知症がある。訪問介護に対して援助拒否があり、特に台所や自室の入室に対して拒否があり、支援が制限されている。難聴のため電話の呼び出し音も聞こえないため、災害時等の安否確認に心配がある。地域の見守りについて、地域の考える見守りと支援者の求める見守りについて議論。			
	イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している／いない	いる			
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している／いない	いる			
	エ. その他【任意・自由記入】	地域ケア会議開催毎に、松戸市の3層構造の地域ケア会議について出席者に説明。出席者にはかなり浸透してきたように感じている。地域ケア推進会議では毎回、個別ケア会議の概要について並びに松戸市地域ケア会議の内容について伝達する時間を設けている。			

7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①医療機関との緊密な連携を行っているか。		4	3		
評価の根拠	ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	<p>肺がんの末期、入院先より本人の意向で退院自宅療養をしていたが体調が悪化したケース。本人の意向を踏まえ在宅医療と訪問看護を提案。訪問診療所への情報提供、介護保険申請に当たり主治医意見書依頼、家族、本人聞き取りによる問診票作成、主治医へ提出した。</p> <p>独居、認知症状と被害妄想等の精神症状があったケース。受診拒否が強く、訪問診療を提案。診療所の医師や相談員への情報提供、本人の状態変化により、診療所と担当ケアマネと連携を図りながら支援を行い、現在は精神科に入院中である。退院時の支援を予定している。</p>			
	イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	<p>独居で親族の関わり拒否によりキーパーソン不在。認知症の診断はないが外来診療の約束を守らない、救急車を頻繁に呼んでしまう等問題行動の多くあるケース。特定疾病があったため第2号被保険者として要介護認定申請の代行を実施。医療機関の主治医、MSW、ケアマネ、サービス事業所と担当者会議を行い、生活の安定にむけ支援を行った。</p> <p>独居、認知症が疑われたが未受診。関係不良から家族との受診同行が困難、医療機関への連絡や確認等の連携を図り、本人不在で家族の受診同行の支援を行った。その際主治医へ本人の日頃の様子や状況等の情報提供を行い、その後それぞれの役割を明確化した。</p>			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要 【自由記入】	在宅時は独居であったが、救急搬送により入院。一時は命も危ぶまれる状況であったが親族は関わり拒否、近隣に住む異性の友人がキーパーソンとなっていたが、後遺症による失語等があるため、MSWと連携し、市長申立による成年後見制度の利用支援を行った。			
	独居の男性で身寄りなく、癌摘出手術のため入院。開腹手術のため退院後に自力での買い物や調理が難しいことと、採血の結果からみて定時処方 of 血栓溶解剤を適切に服薬できていないなどの情報を病棟看護師よりいただいた。病棟看護師と連携し在宅移行の支援を行った。			
エ. その他 【任意・自由記入】	支援対象が高齢者であるため、医療的課題を抱えるケースが多いが、医療機関との連携が必要なケースについては課題解決に向け医療機関と密に連携を行うことが出来ている。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。	4	4	ア 地域サポート医のクリニックと近距離にあり、十分な連携が図られており、日頃から相談しやすい関係を構築している。	
ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(28年度1年間)【件数を記入】※相談支援件数・アウトリーチ件数・合計を記載	相談支援件数 0 件 アウトリーチ件数 1 件 合計 1 件			
イ. 地域サポート医又は、その他の医療機関との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	独居、ゴミ屋敷、認知症が疑われるが未受診であったケース。本人・家族に対し受診勧奨するが、家族での受診が出来なかったため、地域のサポート医へ診療依頼。受診の際同行し、介護保険新規申請代行を支援。問診票等の作成提出含めサポート医へ本人の日頃の様子を情報提供した。現在介護サービスが導入されている。 長期間、入浴や整髪、清潔保持、整容がなされていなかったケース。認知症が疑われていたが未受診。地域の医療機関に介護保険新規申請に当たり受診を本人、家族に促し、医療機関には情報提供を行った。現在デイサービス等を利用し清潔の保持が出来ている。			
ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するためにしている具体的な方策【自由記入】	医療機関や医師会等主催の会議や研修会等に参加し、ネットワークづくりの機会をもつ、また、地域ケア会議やサービス担当者会議等あらゆる機会を利用して連携を深め、医療的な課題が生じた際は協力を仰ぐことのできる関係作りに努めている。			
評価の根拠				

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
エ. 医療関係者と合同で参加した全てのカンファレンス・研修の日程・テーマ【日程・テーマを記入】	在宅医療・介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会 平成29年3月27日 東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症疾患医療センター合同連絡協議会(7月12日、1月17日) まちっこプロジェクト講師研修会(6月25日)まちっこプロジェクト実施報告会(29年2月19日) 松戸市認知症コーディネーターフォローアップ研修会(6月16日、10月20日)世話人会(4月28日、7月1日、8月25日、9月26日、12月8日)専門職向け認知症関連研修会(29年2月23日) 認知症初期集中支援チーム員会議(7月30日、9月30日) 松戸認知症予防プロジェクト関係者会議(29年3月6日)	/		
オ. その他【任意・自由記入】	地域サポート医には、在宅医療・介護連携相談窓口プロジェクトに係るケースのほか、地域ケア会議での助言や相談援助に係る医療面での協力をいただくことが出来ている。 このほか、近隣の医療機関の相談員や病棟スタッフとは相談支援の場面において連携しており、ネットワークの構築が出来ている。			

8. 認知症高齢者支援

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。	4	4	オ 平成27年度より、センター独自にファイブコグテストを実施している。テストの結果は、集計し、経過を追うことができるよう、データベースを作成している。	
評価の根拠	ア. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】	1 件		
	イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容【自由記入】	要介護状態である配偶者と2人暮らしであったが、夫婦喧嘩から配偶者が警察に通報し、高齢者虐待疑いにて包括介入となる。本人は警察に連れられ精神科を受診するも紹介状を渡され帰宅。包括職員が受診を勧めるも拒否あり、鑑別診断と早期治療の必要性を考え初期集中支援チームにつなぐ。認知症認定看護師と同行訪問。受診に繋げるのは困難と判断。夫婦2人にアセスメントツールを用い聞き取りを行ったところお互いに補い合って生活していることがわかる。配偶者のサービスを調整しながら在宅で安全に生活できるよう地域の民生委員に見守りを依頼している。		
	ウ. DASCを活用した認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(28年度1年間)【件数を記入】	4 件		
	エ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】	高齢者の2人世帯、転倒を繰り返していた相談者へDASCを実施したケース。転倒骨折の危険性もあり介護保険の申請、住宅改修にて環境を整備の支援を行った。セルフケアでは毎週、老人会への参加と週末の外出は継続して行った。転倒を繰り返しているとの事から専門医による脳の検査をすることを勧めた。結果、認知症状は認めないものの「水頭症」との診断を受けた。手術を受け現在も治療中である。		
	オ. その他【任意・自由記入】	認知症の早期把握・早期対応の方策として、認知症予防教室のプログラムのなかで平成27年度よりセンター独自に地域住民を対象としたファイブコグテストを実施し、MCIのスクリーニングを行っている。テストの結果は参加者全員にお返しし、結果を踏まえた認知症予防のための実践等について講義を行った。次年度以降も実施予定である。		

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。	4	4	圏域内の小学校において、小学4年生にむけ「認知症サポーター養成講座」を、オレンジ協力員による「認知症の理解」「認知症の人への正しい対応」についての寸劇を交えて開催。寸劇で具体的な情景を演じることで、認知症への理解が深まったとの感想が多数寄せられた。その後、松戸市職員向けの講座でも再演した。	
ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	37件			
イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動(1事例)の内容【自由記入】	圏域内の小学校において、小学4年生にむけ「認知症サポーター養成講座」を、オレンジ協力員による「認知症の理解」「認知症の人への正しい対応」についての寸劇を交えて開催。寸劇で具体的な情景を演じることで、認知症への理解が深まったとの感想が多数寄せられた。その後、松戸市職員向けの講座でも再演した。			
ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程、主な参加者層及び参加者数【日程・主な参加者層・参加者数を記入】	①平成28年5月16日(月)マンション住民が中心。10名参加。 ②平成28年6月14日(火)小学4年生を対象。42名参加。 ③平成28年6月20日(月)老人クラブ会員が中心。39名参加。			
エ. 認知症ケアパスの普及啓発のために行っている具体的方策【自由記入】	窓口での相談支援で必要性のある相談者に対してお渡しし、活用していただけるよう説明をしたほか、センター窓口およびセンターが主催する事業において配布した。 また、「介護者のつどい」および認知症カフェ「カフェドオレンジ」にて配布、啓発した。			
オ. その他【任意・自由記入】	ケアパスについては、センター職員が認知症コーディネーターの立場で、次年度の認知症ケアパス検討会へ参加するほか原稿の作成にも携わった。 その他認知症支援に関しては、センター職員全員が初期集中支援チーム員研修もしくは認知症地域支援推進員研修を受講済みであり、高い専門性をもって支援にあたる体制が出来ている。			

9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。	4	3		
評価の根拠	ア. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	夫婦二人暮らし、友人もなく寂しさの訴えから地域の介護予防のサークルを案内した。体調等により休みがちではあるが参加意欲はある。本人から「参加されている方がとても親切でうれしかった、これからも通える範囲で通いたい」と話されていた。状態は継続している。		
	イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	転倒を繰り返す、歩行速度が遅くなるなど、年々下肢筋力の低下を実感され「いきいきトレーニング」を開始したケース。教室終了後は姿勢や歩行状態などの改善が見られ、地域の予防活動である「松戸ピンシヤンくらぶ」に繋いだ。		
	ウ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】	退職後活動量が減り躓きや歩行時のふらつきの相談から「いきいきトレーニング」に繋いだケース。運動機能向上プログラムに参加したことで終了後のチェックリストでは非該当と言う結果を得られた。その後、引き続き自主運動サークルに参加し、現在、機能維持が図れている。		
		腰やひざの痛みがあり「いきいきトレーニング」利用開始となったケース。教室利用前はチェックリストにて『運動器』『認知』『うつ』に該当していたが、教室終了後は事業対象者、非該当となり、心身ともに機能の改善が見られた。		
	毎月1回は電話などでモニタリングを実施することとなっているが、当センターでは利用者の通う事業所へ訪問しモニタリングする機会を多く持っている。3か月に1回は自宅へ訪問してのモニタリングを実施。認定有効期間の満了時やサービスの増減が必要になった際などはサービス担当者会議を開催し、利用者およびサービス事業所との連携を図っている。サービス事業所とは連携を密にし、定期モニタリング時以外のタイミングでも必要時には利用者に連絡をとり、常に利用者の最新の状況を把握するよう努めている。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
エ. その他 【任意・自由記入】	<p>当センターの行うケアマネジメントについては、自立支援に主眼を置き、法令を遵守して実施している。</p> <p>「いきいきトレーニング」の修了者については、地域の事業所の協力もあり、今年度もほぼすべてのケースにおいて地域活動につながる事が出来た。</p>	/		

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。	4	4	ア・オ 委託に関する「管理表」は、いつ、だれが、どの事業所に、何件依頼をしたのか、リスト化し、結果も明記され、わかりやすく整備されている。(対応不可であった事業所も含めて)依頼における公平性が担保されている。	
評価の根拠 ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するためにしている具体的方法【自由記入】	介護予防ケアマネジメント委託にあたっては、特定の事業所に偏ることの無いよう、センター創立以来管理表を作成し、依頼先ごとの依頼ケース数について管理している。委託するごとにこの管理表を確認し、公正に委託できるよう努めている。			
イ. 居宅介護支援事業者へ委託した場合の台帳及び進行管理が行われている／いない	いる			
ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】	当センターの立地から、近隣他市の居宅介護支援事業所も含め、地域の居宅介護支援事業所の最新の受け入れ状況を把握することに努めるとともに、委託を依頼した居宅介護支援事業者へのきめ細かいフォローを心掛けている。			
オ. その他【任意・自由記入】	委託先が偏ることがないように、データベースを作成し地域の事業所にまんべんなく依頼するよう努めている。また、委託したケースにおいては適正なプランの確認のほか、適切にケアマネジメントが実施されているかセンターが責任をもって確認し、必要に応じて助言等を行っている。 また、委託契約を締結している事業所に対しては、センターが主催する研修会を案内し、適正なケアマネジメントに努めている。			

10. 松戸市指定事業

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。	4	3		
評価の根拠	ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 18回 参加総数 506名 ○最多参加総数 35名 平成28年5月12日(木)運動教室(まつどピンシヤンくらぶ) 運動遊具を利用した介護予防教室 女性が約8割。70代の参加が多い。		
	イ. センターが開催する認知症予防教室の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 9回 参加総数 346名 ○最多参加総数 48名 平成28年5月18日(水) 脳の健康度アップ教室「いきいき歌う会」 合唱・脳トレ・口腔体操・介護予防体操 60代から80代まで幅広い年齢層。女性が約9割。		
	ウ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】	・高齢者支援相談員会の活動への助言・支援。 ・ボランティア活動を希望する住民への窓口案内・繋ぎ等。 ・オレンジ協力員への支援(交流会の実施、活動への繋ぎ、助言等)。		
	エ. 申請代行業務(サービス利用の申請代行、住宅改修の助言・理由書作成等)の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	介護保険認定申請代行: 88件 住宅改修の助言・理由書作成: 3件 その他:(軽度生活援助事業利用申請代行): 8件		
	オ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの普及啓発の具体的な実施方策【自由記入】	普及啓発活動として、高齢者支援相談員会の公開講座や地域住民からの要請等を受け、啓発活動を実施。地域包括支援センターの役割や介護保険制度、消費者被害防止等について講義を行った。		